

「御挨拶」

防衛大臣 木原 稔



ろです。

着任の際、「防衛力の抜本的強化の1日も早い実現」、そして、「全ての隊員が高い士気と誇りを持って働ける環境の整備」をしっかりと進めていくと隊員諸君に訓示しました。

防衛力強化の迅速化のためには、必要な装備品を速やかに取得することが重要です。このため、国産スタンド・オフ・ミサイルのより早期の取得に向けた検討を進めるとともに、トマホークの一部を前倒しして取得することとしました。

こうした取組と同時に、新たに取得する装備品を取得後速やかに運用できるように、準備をしっかりと進めていきたいと思っています。

また、今や、どの国も一国では自国の安全を守ることはできません。戦後の国際秩序への挑戦が続く中、我が国は普遍的価値と戦略的利益等を共有する同盟国・同志国等と協力・連携を深めていくことが不可欠です。

アメリカのオースティン国防長官との間では、日米同盟の抑止力・対処力を一層強化していくことを確認したほか、豪州や英国との間でも、防衛協力・交流を一層進めていくため、緊密に連携していくことを確認したところです。

そして、こうした二国間の関係に加え、日米を基軸とした多国間協力の発展も重要になってきています。

日米韓、日米豪、更には日米豪印

といった多国間防衛協力を更に深化させていきます。

こうした防衛力強化のための取組とあわせて重要と考えているのが、人への投資です。

防衛力の中核は自衛隊員であり、少子化が進む今日、人材の確保は大きな課題です。

厳しい募集環境の中でも優秀な人材をしっかりと確保していくため、募集能力の強化、民間人材を含む幅広い層からの人材確保、人材の有効活用や育成、処遇の向上や生活・勤務環境の改善等を通じ、全ての隊員が高い士気と誇りを持って働ける環境を整備してまいります。

更には、防衛生産・技術基盤の強化も重要な課題だと感じています。

防衛生産・技術基盤は、いわば防衛力そのものと位置付けられるものであり、その強化は必要不可欠です。

昨年10月に施行された防衛生産基盤強化法に基づき、必要な施策を強化かつ迅速に進めていけるよう、先頭に立ってしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

そして、ハラスメントは人の組織である自衛隊の根幹を揺るがすものであり、ハラスメントを一切許容しない環境を構築することが必要です。

防衛大臣として、着任時や部隊視察の際の訓示において、隊員一人ひとりに、ハラスメントに対処するところで私の思いを伝えていこう

あり、昨年10月には、全てのハラスメント案件について厳正に対応するよう、改めて指針をしたところです。このように、防衛省が取り組むべき課題は数多くあり、防衛省・自衛隊に寄せられる期待もこれまでになく大きなものになっていると感じています。

こうした中にもあっても、隊員諸君は、「国を守る」という共通の使命を果たすべく、それぞれの持ち場で懸命に任務に当たってくれています。「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に務め、もって国民の負託に答える。」

この職務の宣誓を胸に、厳しい現場で働く隊員は、自衛隊の、そして日本国の宝です。

本年も、防衛大臣としていかなる時にも隊員諸君と心を一つにして、国民の命と平和な暮らしを守るという使命を果たしていく所存です。

長年、我が国の防衛に関する様々な活動に取り組んでこられた偕行社会員の皆様におかれましては、なお一層の御支援と御協力を賜われれば幸いです。

本年4月には、偕行社は陸修偕行社に改称されると伺っておりますが、皆様の今後益々の御隆盛と、会員並びに御家族の皆様益々の御健康と御多幸を、心より祈念し、私の御挨拶とさせていただきます。